

平成30年度 国語科

教科	国語	科目	現代文B	単位数	3	年次	2
使用教科書	現代文B改訂版上巻 (大修館書店)						
副教材等	原色シグマ新国語便覧ビジュアル資料 (文英堂) 常用漢字の1・2トライ (浜島書店) 論理的に考えるLT現代文 (浜島書店)						

1 担当者からのメッセージ

- ・実生活に必要なのは、初見の文章を自分の力で読んでいく力です。
- ・文章の要旨とともに、何のためにその文章を書いたのかまで考えられるようになりましょう。
- ・読解によって得た経験知を、自分の文章として表現してみましょう。
- ・授業の後には内容を振り返り、確認できるようにしましょう。
- ・提出物の期限は守り、定期考査には学習計画を立てて臨みましょう。

2 学習の到達目標

- ・自力で文章読解をし、内容を判断し、客観的に理解することができる。
- ・目的や場に応じた的確に、文章の内容や構成または登場人物の心情を理解することができる。
- ・読み取った内容を適切に表現し、的確に伝えることができる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲 ・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観 点 の 趣 旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
主 た る 評 価 方 法	行動の観察 記述の点検 (ノート、ワークシート等)	行動の観察 (発表等のパフォーマンスの 評価)	記述の確認及び分析 (ワークシート、原稿用紙) 定期考査	記述の確認及び分析 (ワークシート) 定期考査	行動の観察 記述の確認 (ノート、 語句の意味調べプリント等) 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	C	d	e		
1学期	評論	教材: 「対話の精神」 「ホンモノのおカネの作り方」 「からだで味わう動物と情報を味わう人間」 ワークシート	○	○	○	◎	○	a: 今まで気づかなかった概念、ものの見方に触れ、新しい世界観を身につける。 b: 詩作品の創作。どれだけ大胆、新しい表現に挑むことができるか。 c: 文章の内容の要約。また、文章に対する自分の考えを文章化する。 d: 評論文の論理の展開や要旨を的確に読み取る。 e: 抽象語、抽象概念を組み立てた理論の読解力を高める。	a: 授業の取り組み姿勢 b: 作品課題 c: 記述課題 d: 定期考査 e: 小テスト
	小説	教材: 「山月記」 ワークシート	○			◎	○	a: 漢文調文体の独特な効果を味わう。 d: 登場人物の心情推移を的確に読み取る。 e: 作者がこの作品を著した意図について考える。	a: 授業の取り組み姿勢 d: 記述課題及び定期考査 e: 小テスト 語句プリント
2学期	評論	教材: 「敬語への自覚、他者への自覚」 「分かち合う社会」 ワークシート	○		○	◎	○	a: 今まで気づかなかった概念、ものの見方に触れ、新しい世界観を身につける。 c: 文章の内容の要約。また、文章に対する自分の考えを文章化する。 d: 評論文の論理の展開や要旨を的確に読み取る。 e: 抽象語、抽象概念を組み立てた理論の読解力を高める。	a: 授業の取り組み姿勢 c: 記述課題 d: 定期考査 e: 小テスト
	小説	教材: 「美神」 ワークシート	○			◎	○	a: 短編小説の基本的な読解方法を身につける。 d: 現代小説に触れ、内容に引きこまれつつ、発言の真偽について考えながら読み進める。 e: 時間の流れに沿った、主人公をはじめとする登場人物の心情の変化を的確に読み取る。	a: 授業の取り組み姿勢 d: 記述課題及び定期考査 e: 小テスト 語句プリント

3 学 期	小説	教材： 「こころ」	○	○	◎	○	a: 明治期の作品を読み、現代に通じるものの見方を知る。 d: 人間の我執をこれほどまでに精緻に叙述した、その表現を読み取る。 e: 語句の理解。テーマの理解。	a: 授業の取り組み姿勢 d: 記述課題及び定期考査 e: 小テスト 語句プリント
	実用の文章	教材 『『お』と『ご』の使い分けについて』	○	◎		○	a: 今まで気づかなかった概念について考え、表現の方法を身につける。 b: 「a」で身につけた表現を使いながら自分で文章を著してみる。 e: 使い分けの規則性を理解する。	a: 授業の取り組み姿勢 b: 作品課題 e: 小テスト、定期考査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 話す・聞く能力 c: 書く能力
d: 読む能力 e: 知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。